

久留米広域

●久留米市 ●田主丸町
●北野町 ●城島町 ●三潁町

平成15年4月10日発行

Vol. 3

合併協議会だより



耳納連山の上にある広々とした田主丸町の平原公園。園内の約800本のサクラの樹には淡いピンクの花が咲き誇っています。園内には、7世紀ごろの平原古墳群があり、石造りの古墳が40数個点在しています。また、福岡県立ふれあいの家北筑後やキャンプ場、鷹取遊歩道などもあり、多目的に利用できる公園です。

合併協定項目45項目を提案

久留米広域合併協議会第3回会議が3月29日、久留米市庁舎で開催されました。第3回協議会には、31人の委員が出席、第2回協議会以降の協議会活動の報告のほか、合併協定項目、15年度事業計画、同予算などを協議しました。

●報告第6号・第2回協議会(2月28日)以降の協議会活動について
2月28日から3月28日まで開催された第3回合併協議会幹事会(3月20

日)、第1回総合調整部会(3月18日)など、延べ38分科会16ワーキンググループの活動を報告しました。
●報告第7号・久留米広域合併協議会財務規程の一部改正について
歳入項目「繰越金の数及び項を定める



▲合併協定項目などについて熱心な協議が進められた第3回協議会

財務規程の一部改正が報告されました。

●第8号議案・合併協定項目について
45項目の合併協定項目(下段参照)、協議会が方向性を協議する項目(下段白抜き数字)、小委員会が協議する項目の3点について提案し、次回の協議会において協議し、決定することになりました。

●第9号議案・平成15年度久留米広域合併協議会事業計画
定期的な協議会の開催、新市建設計画の作成、調査研究の実施、合併協議会だよりなどの発行、ポスターの作成、ホームページの充実・更新などの事業計画が承認されました。

●第10号議案・平成15年度久留米広域合併協議会予算
新市建設計画作成経費や広報紙発行、ポスター作成、ホームページの更新経費など、事業実施に伴う歳入・歳出それぞれ総額5,003千円の予算が承認されました。

【質疑】今回提案された合併協定項目は、今後、項目の追加や削除はできるか。
【回答】協議が必要項目で認められれば項目の追加はできます。合併協定項目が決定されれば削除することについてはありません。

【質疑】合併協定項目は行政の仕事をどう変えていくかという内容になっていく。住民に負担をかけている道路愛護
【回答】合併の方式については任意協議会で「法定協議会で整理する」との確認がされています。合併の方式も合併協定項目の1項目でありますので、スケジュールに沿って協議会で協議し、決定していただく予定です。

ていただきたい。

【質疑】合併の方式については任意協議会で「法定協議会で整理する」との確認がされています。合併の方式も合併協定項目の1項目でありますので、スケジュールに沿って協議会で協議し、決定していただく予定です。

【質疑】新市建設は新市の「夢」です。事務局にはできるだけ夢があるような、また住民が納得いくような新市建設計画を作り上げていただきたいし、それに対しては存分な協議をお願いします。

久留米広域合併協議会では、約1500項目にのぼる事務事業の調整方針案づくりなどを行うため、専門部会や分科会・ワーキンググループ会議を精力的に開催し、協議を進めています。今回は、この中から、総合調整部会と住民の皆さんに関係の深い資産税ワーキンググループ会議を紹介します。

第1回総合調整部会が3月18日、久留米市庁舎で開催されました。同部会には、各市町の企画や財政、電算担当者など15人が出席し、合併協定項目や一部事務組合の調整方法などを協議しました。

同部会には、新市建設計画策定会議や財政調整会議、電算調整会議、人事調整会議及び企画調整会議の5分科会が設置されています。

各分科会で今後、新市建設計画の原案作成や新市の財政シュミレーション、電算システムの統合、行政改革、広域行政などについて検討・調整します。



また、同日には固定資産税のワーキンググループ会議も久留米市庁舎で開催されました。

同会議では、各市町の土地・家屋の調査方法や税額の根拠となる評価方法など現状が報告され、相違点などを確認しました。今後、相違点の整理などを行い、所管の部会、幹事会を経て協議会の場で調整方針が協議されることとなります。



久留米広域合併協議会のホームページでは、協議会の開催案内や会議資料、議事録など、協議会に関する情報が掲載されています。

- また、各市町の担当課及び連絡先は次のとおりです。
- 久留米市 広域合併推進室 0942・30・9128
 - 田主丸町 総務課 09437・2・2111
 - 北野町 企画財政課 0942・78・3551
 - 城島町 広域合併推進室 0942・62・2111
 - 三潴町 企画財政課 0942・64・2311

第8号議案で提案された合併協定項目(案)

事務事業の一元化に係る事項										自治体の運営に関する基本的な事項					合併特例法による協議事項		基本的事項																											
45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
新市建設計画	社会教育事業の取扱い	学校教育事業・通学区域の取扱い	商工・観光関係事業の取扱い	農林水産関係事業の取扱い	土地利用に関する取扱い	公共交通に関する取扱い	道路事業に関する取扱い	保健医療事業の取扱い	介護保険事業の取扱い	国民健康保険事業の取扱い	高齢者福祉事業の取扱い	児童福祉事業の取扱い	障害者福祉事業の取扱い	下水道・生活排水処理事業の取扱い	上下水道事業の取扱い	ごみ処理に関する取扱い	商場に関する取扱い	消防団の取扱い	消防防災事業の取扱い	コミュニティ施策の取扱い	情報公開に関する取扱い	行政区間の取扱い	国際交流事業・姉妹都市の取扱い	広報広聴事業の取扱い	慣行の取扱い	補助金・交付金等の取扱い	町名・字名の取扱い	公共的団体等の取扱い	使用料・手数料等の取扱い	一部事務組合等の取扱い	事務組織及び機構の取扱い	条例・規則等の取扱い	特別職の身分の取扱い	地域審議会の取扱い	一般職の職員身分の取扱い	地方税の取扱い	農業委員会委員の定数及び任期の取扱い	議会の議員の定数及び任期の取扱い	財産の取扱い	新市の名称	合併の期日	合併の方式		

※「協議会で方向性を協議する項目(白抜き数字)」は、まず協議会が協定項目の調整にあたっての方向性を決定し、その「方向性」に基づき、幹事会、分科会等が調整方針案を作成し、改めて協議会において調整方針を協議・決定します。

その他の協定項目については、幹事会、分科会等で調整方針案を作成され、協議会において協議・決定します。

●わが市・町を紹介します

～ Introduction of Our Hometown ～

城島町

- 人口：13,946人（平成12年国勢調査）
- 世帯数：3,853世帯（同）
- 町域：17.58平方キロ

城島町は、明治22年と昭和30年の2回にわたる合併により現在の城島町になりました。筑後平野のほぼ中央に位置し、筑後川が町の北西部を流れ、北東部は久留米市に、南西部は大川市に南東部は三潆町・大木町に隣接しています。高低差はほとんどなく、町全体が平地であるため、米麦を中心とした農業を主に栄えてきました。

産業では、「城島の酒」としてその名を広く知られ、筑後川の水運を利用して県内だけではなく九州各地に多く出荷されてきました。酒と並んで、城島瓦や和傘の産地としても知られてきました。近年は産業の形態も変化し、平成の時代を迎えてはパナソニックやホクトなど優秀な企業を誘致し転換期を迎えています。

第三次総合計画では「ゆとりと潤い・温もりと活力に満ちた・じょうじま」の実現に向けた町づくりを進めています。特に、平成10年にオープンした総合文化センター（文化ホールと図書館など）は、住民が参加する文化活動の拠点となっています。町民図書館の年間貸し出し冊数は、人口1人あたり11.3冊となり県内でも上位にランクするほどになっています。また、親子の心のきずなを育むため、赤ちゃんに絵本をプレゼントし、読み聞かせる機会を提供するブックスタート事業を始めました。文化ホールでは、一流の文化・芸能の鑑賞だけにとどまらず、住民の文化活動の育成や文化発表の場としても広く利用されています。このように町民の生涯学習の拠点施設として役割を果たしています。



600人収容の文化ホールや図書館、研修施設を併設した城島町総合文化センター

北野町

- 人口：17,404人（平成12年国勢調査）
- 世帯数：4,855世帯（同）
- 町域：20.49平方キロ

現在の北野町周辺（筑後国河北荘）はもともと京都・北野天満宮の神領でした。その地に天喜2年（1054年）、京都より菅原道真の分霊が祀られ、北野天満宮が創建されて以来、「北野」は北野天満宮の門前町として発展してきました。また北野天満宮境内には、歴史を物語る数々の宝物が伝えられています。菅原道真公の生涯、菅公の神霊の活躍、社寺の創建・霊験の3巻からなる「北野天神縁起」や、県指定文化財の「銅製鑿口」などが保管されています。

明治22年の市町村制施行により北野村（明治34年町制施行）、弓削村、大城村、金島村が発足しました。また、明治29年の御井・御原・山本の三郡合併による「三井郡」発足の際は、大正12年の郡制廃止までの間、郡役所が北野村（町）に置かれ、「北野」は郡の行政の中心地としても発展してきました。昭和30年3月、1町3村が合併し、現在の「北野町」となり、今日に至っています。

肥沃な土壌を生み出す筑後川の恩恵を受け、北野町では米、麦、大豆はもちろん、野菜づくりが盛ん。レタス、ニラ、大葉、ミツバ、パセリなど100品目を超える「多品目生産型」の野菜産地として知られ、北野ブランドの野菜は、福岡市などの近郊都市をはじめ、関東・関西都市圏まで出荷されています。町では、より活発に農業ができる環境づくりに努め、農業後継者のグループの支援や用排水路や農道の整備などを行っています。

また、素材の味を生かした手づくりにこだわる「やましお漬」は、北野町の特産品として、日本全国のファンから愛されています。



北野町の特産品として全国のファンから愛されている「やましお漬」製造工場